

## ウトロ海域における保全と利用の取り組みの進捗状況について 知床ウトロ海域環境保全協議会の取り組みと主な活動

### ねむろバードランドフェスティバルへの出展

2021年1月30日 新型コロナウイルスの影響でオンラインのみの開催となった。知床ウトロ海域環境保全協議会の事務局長福田佳弘がオンラインで講演を行った。100人以上の視聴者の参加があった。

~~ねむろバードランドフェスで講演を紹介した新聞（2021年2月4日の北海道新聞）~~  
(著作権の関係上、未掲載)

### 羅臼海域海鳥観察クルーズ

2月7日（日）羅臼漁港発着 観光船カムイワッカ88に乗船



図-14) 流氷帯でのワシ類の観察 図-15) ケイマフリが出現したときにケイマフリの模型を使っての解説

本来、ウトロ側で行う予定であったが予定していた日程全てで小型観光船が航行するには厳しい悪天候で海況の悪い状況となった。そして、10月に入ると小型観光船のウトロ側での航行の営業が終了となった。

そこで、予定していた観光船会社が羅臼側で営業しているため、環境省ウトロ自然保護官事務所とも相談し羅臼で行うことになった。

1月になると波が落ち着いて来るため、1月の開催を予定したが悪天候や海況が悪い日が続いたため2月7日の開催となった。当初計画していた、子供達参加のサンセットクルーズも厳冬期という事もあり一般から募集することとなった。

募集は、北海道ネイチャークルーズという Facebook 上からの参加者を募った。

季節外れのシャチの出現やトドそして海鳥やオオワシなどが見られ参加者は一応に満足した様子であった。

\*令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業「世界自然遺産・知床国立公園のウトロ海域における海鳥ツアーへの誘客」の助成金で活動を行った。

野付半島ネイチャーセンターでの展示

ねむろバードランドフェスティバルにおいて展示をする予定であったが、出来なかったため野付半島ネイチャーセンター展示室で知床の海鳥の展示を行った。

12月5日から1月31日まで展示室で展示を行い。2月1日から3月31日までは受付に隣接したスペースで展示を行った。



図- 知床半島ジオラマと知床の海鳥紹介パネル（展示室）



図- 受付に隣接したスペースでの展示（知床半島のジオラマとケイマフリの原寸大の巣を展示）

うみどりWEEK開催（7月21日から7月30日）



図-1) うみどり WEEK 大型観光船おーろらでの観察トークポスター

＊うみどりトーク

ウトロにある観光ホテルにおいて2回開催した（例年は4回行っているが、コロナ過という時期であり、許可の出た2ホテルとなった）。知床第一ホテル17名 ホテルしれとこ15名の参加があった。



図-2) ホテルしれとこでもうみどりトーク

＊うみどり観察トーク



図-3) おーろらでのうみどり観察トークの様子

|       |             |     |         |
|-------|-------------|-----|---------|
| 7月22日 | カムイワッカの滝コース | 21名 | スタッフ3名  |
| 7月25日 | カムイワッカの滝コース | 27名 | スタッフ3名  |
| 7月28日 | カムイワッカの滝コース | 30名 | スタッフ3名  |
| 7月30日 | 秘境知床岬コース    | 16  | スタッフ10名 |

＊夕暮れうみどり観察クルーズ

7月24日 保護者15名 愛護少年団11名 関係者12名(合計大人27名 小学生11名)  
(未来みなとづくり助成金の補助金で開催)



図-4) 夕暮れうみどり観察クルーズの様子



＊うみどり WEEK 特別展

世界自然遺産センターで7月21日から8月第一週まで開催。

＊海鳥インスタライブ

7月29日 知床自然センターとのコラボ企画 おーろら号の甲板にてインスタライブを行った。17時～30分程度開催。リアルタイムで約80人が閲覧し、アーカイブでは約450回の再生があった。

海上ゴミ救い回収活動

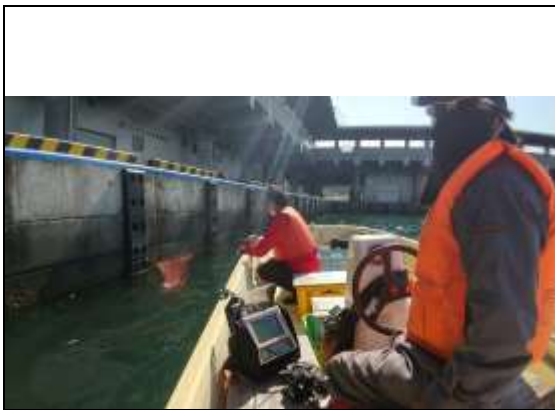


図-5) ゴミ救い活動の様子



図-6) 救って回収したゴミ

9月4日 ウトロ港からカムイワッカの滝までの沿岸に浮遊するゴミを小型ボートを利用して行った。作業員4名

9月9日 ウトロ港からカムイワッカの滝までの沿岸に浮遊するゴミを小型ボートを利用して行った。作業員4名

(未来みなとづくり助成金の補助金で開催)

販売物ネット販売

ケイマフリ手ぬぐい&ハンドブック&喫茶アルビレオのケイマフリブレンドコーヒーセットなどを通販で販売。(9月～)

知床ウトロ海域環境保全協議会の海のハンドブック

今年のこれまでの販売は1140冊程度であった。コロナ過ということもあり販売冊数は伸び悩んでいる。しかし、来年春からは改訂したハンドブックを販売するため販売冊数が伸びることが予想される。

ケイマフリの生息状況について

保護と利用の両立の観点から生息地が観光船などと重なるケイマフリについて特筆する。これまでの調査結果と比較すると育雛期中盤の 7 月 10 日に過去最高の 244 羽を数えた。しかし、その後急激に個体数が減少したことや主な餌資源であるイカナゴの捕食が例年より極端に少なかったことから単に個体数が多かったことで安心はできないと考えられる。

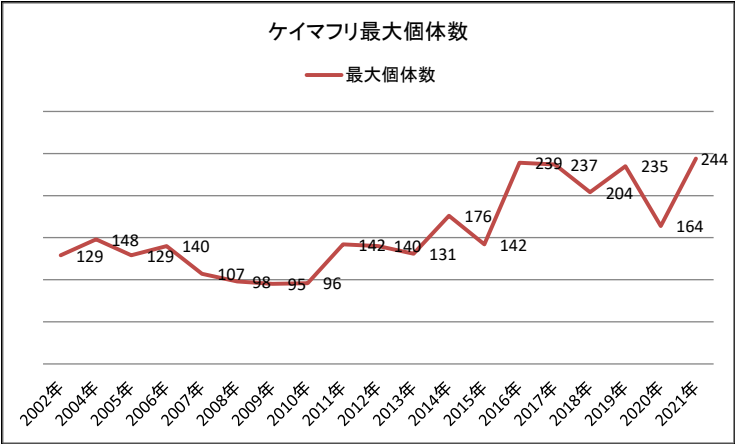


図-7) ケイマフリの最高個体数の経年変化

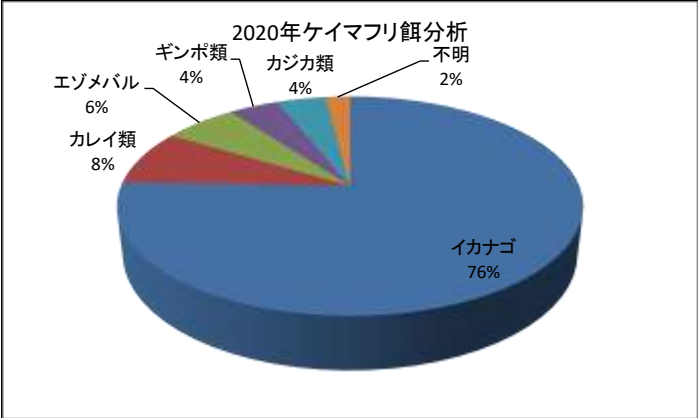


図-8) 2020 年ケイマフリ餌分析

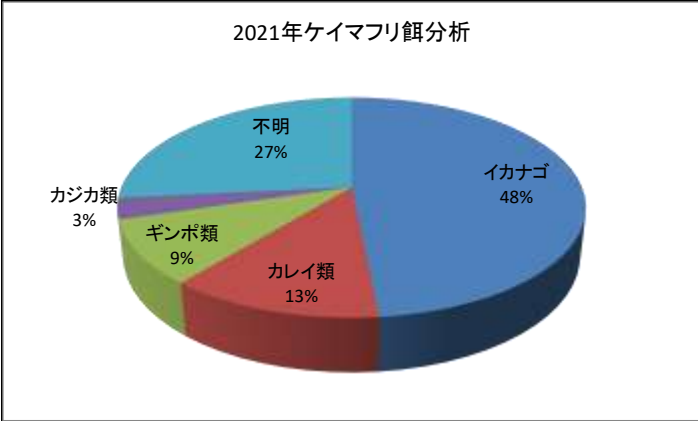


図-9) 2021 年ケイマフリ餌分析